

Graphic Art



Gio Makyo on AI art

Artist : Gio Makyo

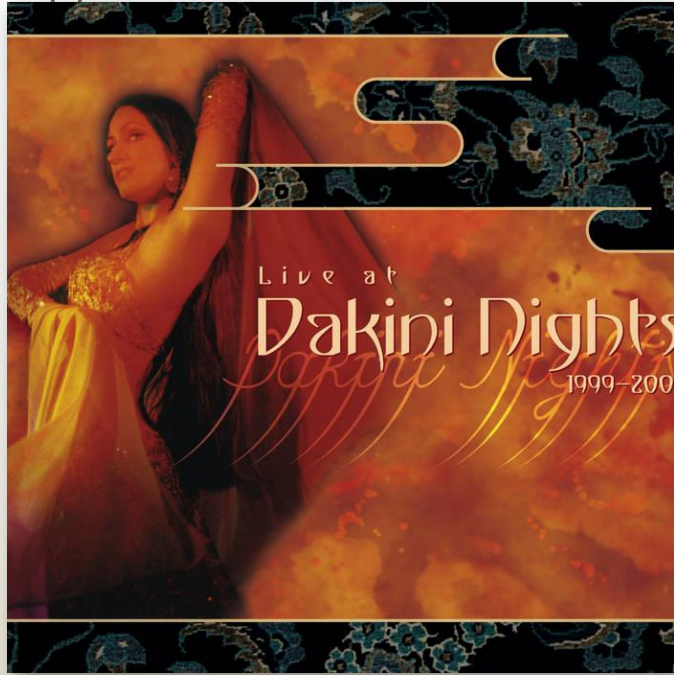
Gio Makyoは、インディアン&アラビック・クラブ・ミュージックや
アンビエントジャンルに大きな影響を与えた
DJ兼音楽プロデューサーとして、2014年まで活躍。
そして近年、Gio Makyoは音で表現して来た世界観を
人工知能によりヴィジュアル化している。



Gio Makyoは、Bill Laswell、Natacha Atlas、Kaya Projectなど数々のリミックスを手がけ、当時、ベリーダンサーたちの間で最も人気があったSolaceのリミックスも2009年にリリース。

1999年より、自身のレーベルDAKINI RECORDSにて世界中のエスノ・フュージョンやトライバル系アルバム作品を27枚リリース。





1998年から2010年まで東京で行われたエキゾチック・アンビエント・パーティー「DAKINI NIGHTS」では、レギュラーDJ兼オーガナイザーを務め、日本国内外のDJ、ミュージシャン、ダンサー、画家とのコラボレーションを行う。

Gio Makyoは、BOOMやSymbiosisなどの多くの国際アウトドアフェスティバルに、DJ兼ライブパフォーマーとして招聘された。



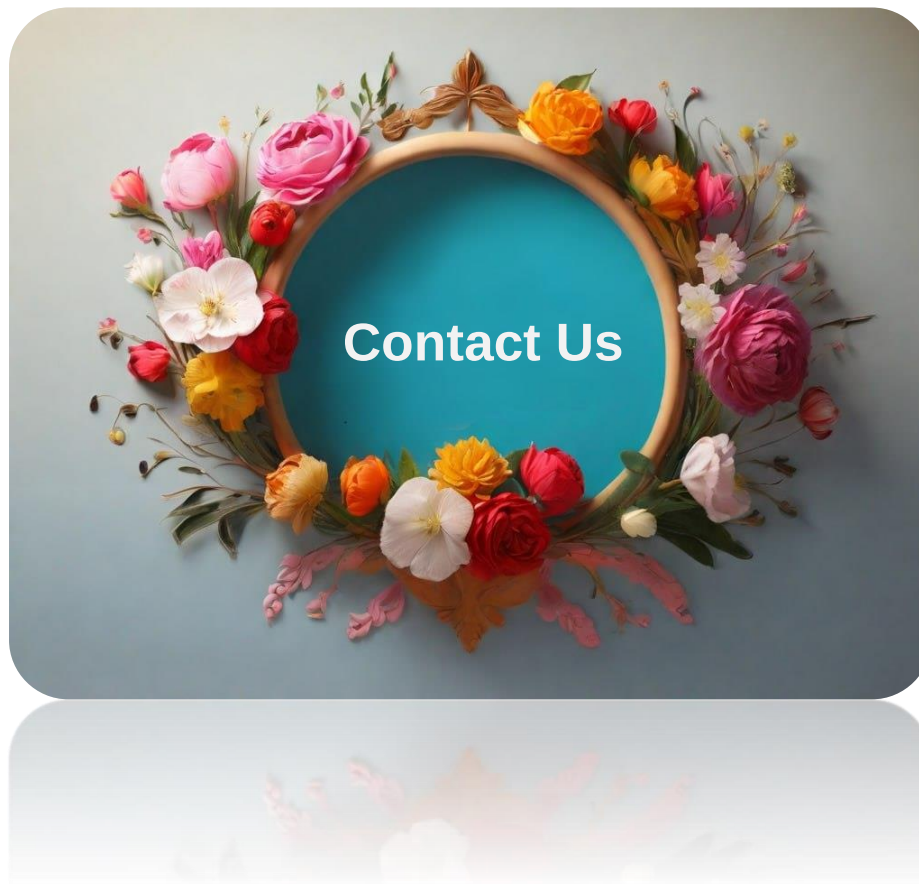


音楽活動をする傍ら、
人気の辛口映画評論家として
Japan Timesにコラムを執筆。

2014年、音楽制作中の事故により耳を傷めたことがきっかけとなり、聴覚過敏症を患う。その症状に加えて重度の神経痛を患いながら、2018年から現在までの5年間、20枚のシングルとEPアルバムをリリース。



近年、巧妙なプロンプトライティングによって
AIアートを自らのアート活動に加え、
これまでのMakyoの音楽スタイルや映画の知識が融合した
独特の世界観をグラフィックアートで表現している。



www.kimiyacast.com



ホーム



お問い合わせ